

感染症定期報告感染症別文献一覧表 (2018/8/1～2018/11/30)

平成31年3月22日  
 平成30年度第3回  
 医薬品等安全対策部会  
 資料 3-1

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	CDCホームページ. <a href="https://emergency.cdc.gov/han/han00412.asp">https://emergency.cdc.gov/han/han00412.asp</a>	2017年1月から2018年4月の間、米国疾病管理予防センター(CDC)は、ヒト-ヒト間のA型肝炎感染の報告2500例以上を複数の州から受領している。1900例を超える報告においてはリスク因子が判明しており、1300例(68%)を超える感染者のリスク因子は薬物使用(注射及び非注射)、ホームレス又はその両方であった。
2	E型肝炎	厚生労働省. <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000192778.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000192778.html</a>	2017年11月7日、照射赤血球液-LRによるE型肝炎ウイルス(HEV)の感染事例(死亡事例)が日本赤十字社より厚生労働省へ報告された。患者は80歳代の女性で、多発性骨髄腫に罹患していた。後日HEV RNA陽性が確認された照射赤血球液-LRの投与約5カ月前から抗がん剤の投与を受けていた。投与後106日目に劇症肝炎で死亡した。患者と保管検体のHEVの核酸の相同性は一致した。
3	インフルエンザ	CDC FluView. 2018/07/06	2018年7月6日、インディアナ州における初めてのインフルエンザA(H3N2)変異型((H3N2)v)ウイルスのヒトへの感染が、米国CDCに報告された。患者は18歳未満の小児で、入院せずに完全に回復した。発症の前週に農業イベントでブタとの間接的な接触が確認された。当該報告により、2005年以降に米国で報告されたインフルエンザA(H3N2)vウイルス感染者数の合計は435例となった。
4	インフルエンザ	CDC FluView. 2018/08/04	新型インフルエンザAウイルス(IVA)に感染した4例がカリフォルニア州(2例)及びミシガン州(2例)から報告された。
5	インフルエンザ	CDC FluView. 2018/08/17	2018年8月17日現在、米国の3州から4例のインフルエンザA(H1N2)変異型(A(H1N2)v)ウイルス感染症例が報告された(カリフォルニア州:2例、ミシガン州:1例、オハイオ州:1例)。2018年、合計9例の変異型ウイルス症例が米国CDCに報告されている。うち1例はインフルエンザA(H3N2)vウイルス(インディアナ州)、8例はインフルエンザA(H1N2)vウイルス(カリフォルニア州:4例、ミシガン州:3例、オハイオ州:1例)であった。
6	インフルエンザ	ProMED-mail. 20180701.5884141	インディアナ州のhealth officialsは、同州が2013年以降に初めてのブタから感染したインフルエンザ症例を記録したと述べた。CDCによると、検査結果により、2018年6月29日に米国で初めてのヒトにおけるH3N2変異型インフルエンザ症例が確認された。
7	インフルエンザ	ProMED-mail. 20180809.5953369	ミシガン州及び地元衛生当局者らは、Livingston群のFowlerville Family Fairでブタに曝露したヒトにおけるIVAの確定症例2例を特定した。
8	インフルエンザ	ProMED-mail. 20180816.5966615	California Department of Public Health(CDPH)は、County of San Luis Obispo Public Health Department及び米国CDCと連携し、2例のヒトにおけるインフルエンザA(H1N2)v感染を確認した。当該症例は、California Mid-State Fairでインフルエンザに感染したブタに接触していた。
9	鳥インフルエンザ	Emerging Infections Summary. <a href="https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/686908/Emerging_infections_summary_February_2018.pdf">https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/686908/Emerging_infections_summary_February_2018.pdf</a>	中国江蘇省で、ヒトの鳥インフルエンザA(H7N4)型ウイルス感染症例が初めて確認された。患者は68歳の女性で、2018年1月1日に重度の肺炎で入院し、2018年1月22日に退院した。症状を発現する前に生きている家禽と接触していた。遺伝的配列決定により、このウイルスは現在中国で流行している鳥インフルエンザA(H7N9)型ウイルスと遺伝的に異なることが示された。
10	鳥インフルエンザ	GovHK. <a href="http://www.info.gov.hk/gia/general/201802/14/P2018021400759p.htm">http://www.info.gov.hk/gia/general/201802/14/P2018021400759p.htm</a>	中国江蘇省で、ヒトの鳥インフルエンザA(H7N4)型ウイルス感染症例が初めて確認された。患者は68歳の女性で、2018年1月1日に重度の肺炎で入院し、2018年1月22日に退院した。症状を発現する前に生きている家禽と接触していた。遺伝的配列決定により、このウイルスは現在中国で流行している鳥インフルエンザA(H7N9)型ウイルスと遺伝的に異なることが示された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
11	鳥インフルエンザ	IDWR. 20(2018)7	中国江蘇省で、ヒトの鳥インフルエンザA(H7N4)型ウイルス感染症例が初めて確認された。患者は68歳の女性で、2018年1月1日に重度の肺炎で入院し、2018年1月22日に退院した。症状を発現する前に生きている家禽と接触していた。遺伝的配列決定により、このウイルスは現在中国で流行している鳥インフルエンザA(H7N9)型ウイルスと遺伝的に異なることが示された。
12	鳥インフルエンザ	ProMED-mail. 20180224.5648329	香港の衛生部衛生保護は、鳥インフルエンザA(H7N4)型ウイルスによるヒト感染例が2018年2月10日～14日に確認されたと国家衛生・計画生育委員会から通知を受け、個人衛生、食品衛生及び環境衛生を厳重に保持するよう注意喚起した。本症例は世界で初めてのヒトのインフルエンザA(H7N4)型ウイルス感染症例である。患者は江蘇省常州市Liyang在住の68歳女性患者で、2017年12月25日に症状を発症した。女性は治療のため2018年1月1日に入院し、2018年1月22日に退院した。女性は症状の発現前に生きた家禽と接触していた。医学的調査期間中、女性と密接に接触したヒトには症状がみられなかった。
13	鳥インフルエンザ	WHOホームページ. <a href="http://www.who.int/entity/influenza/vaccines/virus/201802_zoonotic_vaccine_virusupdate.pdf?ua=1">http://www.who.int/entity/influenza/vaccines/virus/201802_zoonotic_vaccine_virusupdate.pdf?ua=1</a>	中国江蘇省で、ヒトの鳥インフルエンザA(H7N4)型ウイルス感染症例が初めて確認された。患者は68歳の女性で、2018年1月1日に重度の肺炎で入院し、2018年1月22日に退院した。症状を発現する前に生きている家禽と接触していた。遺伝的配列決定により、このウイルスは現在中国で流行している鳥インフルエンザA(H7N9)型ウイルスと遺伝的に異なることが示された。
14	鳥インフルエンザ	WHO ホームページ. <a href="http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_02_03_2018.pdf?ua=1">http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_02_03_2018.pdf?ua=1</a>	中国江蘇省で、ヒトの鳥インフルエンザA(H7N4)型ウイルス感染症例が初めて確認された。患者は68歳の女性で、2018年1月1日に重度の肺炎で入院し、2018年1月22日に退院した。症状を発現する前に生きている家禽と接触していた。遺伝的配列決定により、このウイルスは現在中国で流行している鳥インフルエンザA(H7N9)型ウイルスと遺伝的に異なることが示された。
15	ウエストナイルウイルス感染	Euro Surveill. 23(2018)	欧州におけるウエストナイル熱の症例報告について、2014年から2017年においては、毎年第25週から第31週の間報告された症例数は5～25例であったが、2018年は当該期間にすでに168例のウエストナイル熱症例が報告されている。過去2年のウエストナイル熱の初例報告は第28週以降であったが、2018年はギリシャから第26週に初例報告があった。環境変化などの調査の結果、異常な気温や降水量などの特定の環境因子がウエストナイル熱伝播の予測因子になり得ることが示唆された。
16	日本脳炎B型	ProMED-mail. 20180522.5810345	2018年5月21日、台湾で今年初の日本脳炎症例が確認された。
17	日本脳炎B型	ProMED-mail. 20180618.5862350	台湾における日本脳炎の状況の追跡調査で、台湾疾病管制署(台湾CDC)は2018年5月19日から6月5日の間に、新たに7例の日本脳炎症例が確認されたと発表した。
18	日本脳炎B型	ProMED-mail. 20180726.5928387	2018年7月24日、台湾CDCは台湾で5例のヒトが日本脳炎と診断され、2018年の現在までに同国での症例数は31例に達したと伝えた。
19	オルソブニヤウイルス検査陽性	ProMED-mail. 20180611.5849758	2016年2月、ウガンダで原因不明の脳炎を発症した3歳女児の脳脊髄液を検査したところ、新規のオルソブニヤウイルスが検出された。女児は、発熱、頭痛及び腹痛を発症後、2件の医療機関で診察を受けたが、2週間後に3件目の医療機関に到着した時には昏睡状態であった。入院し治療を受けたが、意識を完全に取り戻すことはなく、そのまま退院となり、2週間後に死亡した。
20	ダニ媒介ウイルス脳炎	ProMED-mail. 20180725.5926981	2018年、ダニ媒介脳炎症例が大幅に増加し、高リスク地域は拡大を続けている。スイス政府は本ウイルスに対する全国的なワクチン接種勧告の発表を検討している。2018年7月24日のSwiss Public Television及びSchweizer Radio und Fernsehenの報告によると、2018年開始以降、既に約230例が本ウイルスに感染している。症例数は2017年の同時期と比較して約2倍である。
21	ウイルス性脳炎	Clin Infect Dis.ciy486	2016年2月、ウガンダで原因不明の脳炎を発症した3歳女児の脳脊髄液を検査したところ、新規のオルソブニヤウイルスが検出された。女児は、発熱、頭痛及び腹痛を発症後、2件の医療機関で診察を受けたが、2週間後に3件目の医療機関に到着した時には昏睡状態であった。入院し治療を受けたが、意識を完全に取り戻すことはなく、そのまま退院となり、2週間後に死亡した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
22	脳症	Clinical Infectious Diseases. <a href="https://doi.org/10.1093.cid/ciy486">https://doi.org/10.1093.cid/ciy486</a>	2016年2月、ウガンダで原因不明の脳炎を発症した3歳女児の脳脊髄液を検査したところ、新規のオルソブニヤウイルスが検出された。女児は、発熱、頭痛及び腹痛を発症後、2件の医療機関で診察を受けたが、2週間後に3件目の医療機関に到着した時には昏睡状態であった。入院し治療を受けたが、意識を完全に取り戻すことはなく、そのまま退院となり、2週間後に死亡した。
23	エボラ出血熱	WHOホームページ. <a href="http://www.who.int/csr/don/23-may-2018-ebola-drc/en/">http://www.who.int/csr/don/23-may-2018-ebola-drc/en/</a>	2018年5月8日、コンゴ民主共和国のMinistry of Health (MoH) は、エボラウイルス疾患 (EVD) のアウトブレイクを宣言した。本件は同国において過去40年間で9回目のEVDのアウトブレイクであり、直近のアウトブレイクは2017年5月に発生した。2018年5月21日時点で、エクアトール州の3つのhealth zonesから死亡27例(致死率47%)を含む累計58例(確定例28例、可能性例21例、疑い例9例)のEVD症例が報告されている。報告された58例のうち、医療従事者は3例であった。
24	エボラ出血熱	WHOホームページ. <a href="http://www.who.int/csr/don/20-june-2018-ebola-drc/en/">http://www.who.int/csr/don/20-june-2018-ebola-drc/en/</a>	2018年5月17日以降、コンゴ民主共和国におけるEVDのアウトブレイクについて、Bikoro及びWangata health zonesで新たな確定例は報告されていないが、Ibokoにおける最新の確定例の患者が2018年6月2日に症状を発現し、6月9日に死亡した。2018年4月1日～6月18日、エクアトール州の4つのhealth zonesから、死亡28例を含む合計60例(確定例38例、可能性例14例、疑い8例)のEVD症例が報告された。
25	エボラ出血熱	WHOホームページ. <a href="http://www.who.int/csr/don/25-july-2018-ebola-drc/en/">http://www.who.int/csr/don/25-july-2018-ebola-drc/en/</a>	2018年7月24日、コンゴ民主共和国のMoHは、EVD確定例に最後に曝露した可能性のある時点から42日間(2回分の潜伏期間)が経過したため、同国における本アウトブレイクの終息を発表した。2018年7月24日時点で、合計54例(確定例:38例、可能性例:16例)のEVD症例(疾患発症日:2018年4月5日～6月2日)が報告され、確定例における死亡17例を含む33例が死亡した(全体的な致死率:61%)。
26	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail. 20180609.5847730	2018年6月6日、パキスタンKarachi市において2018年で3例目のクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の症例が報告された。当該患者はQuetta市出身で、病院へ搬送された際に出血していた。2018年初め、Lyariの30歳代の住民がコンゴウイルスの合併症により死亡した。コンゴウイルス検査で陽性を示した別の患者1例は治療が成功した。
27	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail. 20180821.5975931	パキスタンRawalpindiにあるHoly Family Hospitalは、2018年現在までに計17例のCCHF疑い患者を受け入れ、うち3例がCCHFに対し陽性であった。女性患者1例が死亡した。
28	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail. 20180822.5979055	2018年8月19日、パキスタンのJinnah Postgraduate Medical Centre (JPMC) は、CCHFに感染した23歳の男性が、同センターの隔離病棟に入院したことを確認した。当該症例はJPMCで8例目のコンゴウイルス症例であった。これまでに患者2例が同疾患により死亡している。
29	ハンタウイルス性肺感染	ProMED-mail. 20180504.5784821	米国Health District officialsはGrant Countyの中年の住民におけるハンタウイルス肺症候群(HPS)の疑い例1例について調査している。当該症例は、車両の清掃中に汚染されたシカネズミの糞に曝露したと考えられている。予備試験結果はハンタウイルス感染に陽性であり、確定結果が待たれている。
30	ハンタウイルス性肺感染	ProMED-mail. 20180516.5799419	2018年5月15日、Grant Countyの居住者において1例のHPS症例が確認された。Grant County Health Districtの当局者は、その症例は車両の洗浄中に汚染されたシカネズミの糞に曝露したと考えられていると伝えた。
31	ハンタウイルス性肺感染	ProMED-mail. 20180527.5821309	2011年、1例の女性がHPSに感染した。女性は農場の鶏舎で糞便暴露した。約1週間後、錯乱及び幻覚が認められ入院し、1週間後に目を覚ました。
32	麻しん	ProMED-mail. 20180606.5841052	世界保健機関によると、アフガニスタンにおける麻しんの症例数は引き続き増加しており、報告されたアウトブレイクは150件を超え、2018年の1月から4月に報告された症例は2000例を超えた。
33	デング熱	ProMED-mail. 20180522.5810322	2018年4月29日現在、インドにおいて1451例のデング熱症例が報告され、うち1例が死亡した。また、2018年1月1日から4月8日までに、ベトナムにおいて14754例のデング熱症例が報告され、うち4例が死亡した。
34	デング熱	WHOホームページ. <a href="http://www.who.int/csr/don/01-may-2018-dengue-reunion/en/">http://www.who.int/csr/don/01-may-2018-dengue-reunion/en/</a>	2018年4月23日時点で、フランス海外領のレユニオンにおいて1816例の土着デング熱症例が確認されている。2017年の年間報告は100例未満であった。最も影響を受けているのは、島の西部及び南部である。デング熱に関連した2018年の救急外来受診数及び入院数は増加しており、2017年の12例に比べ、2018年は50例の入院が報告されている。
35	灰白髄炎	ProMED-mail. 20180817.5972364	2018年8月15日時点のWHOのポリオウイルス週間更新情報において、野生型ポリオウイルス1型(WPV1)の新規症例1例がアフガニスタンの南部のKandahar市で確認され、同国南部における合計症例は7例となった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
36	灰白髄炎	Wkly Epidemiol Rec. 93(2018) 397-408	WHOによると、2017年の世界における急性弛緩性麻痺症例は104367例であった。2017年にWPV1症例22例、循環型ワクチン由来ポリオウイルス(cVDPV)症例96例が世界において発生した。2018年は6月26日時点でWPV1症例11例、cVDPV症例12例が発生している。うち、アフガニスタンにおいてWPV1症例8例、パキスタンにおいてWPV1症例3例が報告された。
37	コロナウイルス感染	Nature. 556(2018)255-258	中国におけるブタの大規模致死性急性下痢症候群アウトブレイクの病原体が、コウモリ由来の新規HKU2関連コロナウイルスであることが示唆された。
38	コロナウイルス感染	Trends Microbiol. 26(2018)466-470	中国におけるブタの大規模致死性急性下痢症候群アウトブレイクの病原体が、コウモリ由来の新規HKU2関連コロナウイルスであることが示唆された。
39	コロナウイルス感染	日本獣医師会雑誌. 71(2018)354-360	2015年1月、山形県内の農場の飼育ブタにおいて、嘔吐及び下痢が認められた。母ブタ及び種雄ブタでは激しい嘔吐又は下痢及び食欲不振を認めたが、哺乳ブタでは下痢のみが認められた。ブタ13頭の糞便についてウイルスの遺伝子検索を行った結果、全頭からブタデルタコロナウイルス遺伝子が検出された。
40	ジカウイルス感染	FDAホームページ. <a href="https://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM518213.pdf">https://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM518213.pdf</a>	血液及び血液成分によるジカウイルス(ZIKV)伝播のリスク低減のために業界向けガイダンスが改訂された。今回の改訂において、米国の全ての州及び領土においてZIKVのスクリーニングにはミニプールNAT又は個別NATのいずれかを使用できるが、特定の条件が存在する場合には個別NATを使用することが勧告された。
41	ヒトT細胞リンパ親和性ウイルス1型感染、ヒトT細胞リンパ親和性ウイルス2型感染	FDAホームページ. <a href="https://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM621245.pdf/2018/09/24">https://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM621245.pdf/2018/09/24</a>	業界向けガイダンス(案)「ヒトT細胞リンパ親和性ウイルス1型及び2型(抗HTLV-I/II)抗体の陽性反応より保留された血液ドナーの再適格性確認に関する勧告事項」に関して報告された。HTLV陽性により献血延期となったドナーに対し、6カ月経過後の献血の可否を判断するための評価基準が記載されている。
42	ヘルペスウイルス感染	PHE. <a href="https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/715511/Emerging_infections_summary_May_2018.pdf">https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/715511/Emerging_infections_summary_May_2018.pdf</a>	人獣共通伝染病ではないと考えられていた仮性狂犬病(Aujeszky disease virus又はSuid herpesvirus 1)のヒトへの感染が、初めて中国より報告された。
43	ラッサ熱	HPS Weekly Report. 52(2018)67-68	Nigeria Centre for Disease Controlからの最新のデータは、5週間連続して新たなラッサ熱確定例及び可能性例の数が減少していることを示しており、公衆衛生措置が効果的であることが示唆されている。現在の流行はナイジェリアの記録において過去最大規模であり、1月及び2月の確定例の数だけで2017年全体に報告された総数を超えている。
44	ラッサ熱	PHE. <a href="https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/686908/Emerging_infections_summary_February_2018.pdf">https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/686908/Emerging_infections_summary_February_2018.pdf</a>	現在、ナイジェリアではラッサ熱の大規模なアウトブレイクが発生している。2018年1月1日から2月25日の間に、90例の死亡を含む合計1081例の疑い例が18の州から報告されている。報告されている症例数は現在増加傾向を示している。317例が確定されており、これは過去最多の症例数で、確定例の80%以上がエド、オンド及びエボニ州で報告されている。
45	ウイルス性上気道感染	Pediatr Infect Dis J. (2018)	イラン北東部のボジュヌールドにおいて、ブタバカウイルスによる上気道感染が発現した症例が報告された。症状は咳や発熱であり、生理食塩液の点鼻、ハーバルシロップ、アセトアミノフェンの投与により回復した。患者は農村に住んでおり、野生のイノシシと近接することもあったため、ブタの分泌物に暴露した可能性が考えられた。
46	ウイルス感染	Clin Infect Dis. (2018)	発疹及び発熱を呈したフロリダ州の10歳代の若者から、オルソブニヤウイルスのカリフォルニア血清型であるKeystone virusが検出された。
47	ウイルス感染	ECDC ホームページ. <a href="https://ecdc.europa.eu/sites/portal/files/document/09-03-2018-RRA-Borna%20disease%20virus-Germany.pdf">https://ecdc.europa.eu/sites/portal/files/document/09-03-2018-RRA-Borna%20disease%20virus-Germany.pdf</a>	2018年3月7日、ボルナ病ウイルス(BoDV-1)感染に起因するヒトの急性脳炎又は脳症4例が報告された。うち3例は同一のドナーからの固形臓器移植者のクラスターに属しており、うち2例は死亡した。ドイツでBoDV-1による脳炎の追加症例1例が判明し、当該症例も死亡した。臓器移植を介したBoDV-1感染の可能性が報告されたのは本件が初めてである。シロハラジネズミがBoDV-1の病原体保有動物とされている。
48	ウイルス感染	Emerg Infect Dis. 24(2018)1087-1090	人獣共通伝染病ではないと考えられていた仮性狂犬病(Aujeszky disease virus又はSuid herpesvirus 1)のヒトへの感染が、初めて中国より報告された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
49	ウイルス感染	Emerging Infections Summary. <a href="https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/698965/Emerging_infections_summary_March_2018.pdf">https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/698965/Emerging_infections_summary_March_2018.pdf</a>	2018年3月7日、BoDV-1感染に起因するヒトの急性脳炎又は脳症4例が報告された。うち3例は同一のドナーからの固形臓器移植者のクラスターに属しており、うち2例は死亡した。ドイツでBoDV-1による脳炎の追加症例1例が判明し、当該症例も死亡した。臓器移植を介したBoDV-1感染の可能性が報告されたのは本件が初めてである。シロハラジネズミがBoDV-1の病原体保有動物とされている。
50	ウイルス感染	Emerg Microbes Infect. 7(2018)	中国新疆自治区において新規ダニ媒介性フレボウイルスであるGuertuウイルスが初めて同定された。ヒトへの感染が示唆される。
51	ウイルス感染	GOV.UK. <a href="https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/715511/Emerging_infections_summary_May_2018.pdf">https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/715511/Emerging_infections_summary_May_2018.pdf</a>	人獣共通伝染病ではないと考えられていた仮性狂犬病(Aujesky disease virus又はSuid herpesvirus 1)のヒトへの感染が、初めて中国より報告された。
52	ウイルス感染	HPS Weekly Report. 52(2018)60-60	2018年3月7日、BoDV-1感染に起因するヒトの急性脳炎又は脳症4例が報告された。うち3例は同一のドナーからの固形臓器移植者のクラスターに属しており、うち2例は死亡した。ドイツでBoDV-1による脳炎の追加症例1例が判明し、当該症例も死亡した。臓器移植を介したBoDV-1感染の可能性が報告されたのは本件が初めてである。シロハラジネズミがBoDV-1の病原体保有動物とされている。
53	ウイルス感染	PHE. <a href="https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/698965/Emerging_infections_summary_March_2018.pdf">https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/698965/Emerging_infections_summary_March_2018.pdf</a>	2018年3月7日、BoDV-1感染に起因するヒトの急性脳炎又は脳症4例が報告された。うち3例は同一のドナーからの固形臓器移植者のクラスターに属しており、うち2例は死亡した。ドイツでBoDV-1による脳炎の追加症例1例が判明し、当該症例も死亡した。臓器移植を介したBoDV-1感染の可能性が報告されたのは本件が初めてである。シロハラジネズミがBoDV-1の病原体保有動物とされている。
54	ウイルス感染	ProMED-mail. 20180611.5850723	発疹及び発熱を呈したフロリダ州の10歳代の若者から、オルソブニヤウイルスのカリフォルニア血清型であるKeystone virusが検出された。
55	ウイルス感染	Transboundary and Emerging Diseases. 64(2017)1633-1640	中国においてセネカウイルスA感染によるブタ特異性水疱性疾病が初めて報告された。
56	クロイツフェルト・ヤコブ病	Sci Transl Med. 9(2017)	孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)患者由来のプリオン播種活性及び感染力を調査した。2例の患者のPrPSc皮膚検体及び38例の患者の剖検又は生検皮膚試料を分析した。ウエスタンブロッティングにより、sCJD患者5例中1例及び変異型クロイツフェルト・ヤコブ病患者2例中1例の真皮にPrPScを認めた。しかし、より高感度なRT-QuICは、クロイツフェルト・ヤコブ病で死亡したすべての患者の皮膚におけるプリオン播種活性を検出した。この研究は、sCJD患者の皮膚にプリオン播種活性と感染力の両方が含まれていることを示唆しており、皮膚を介した医原性sCJD伝染の可能性が懸念される。
57	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis. 24(2018)1482-1489	シカでの慢性消耗病(CWD)病原体であるCWDプリオンが、ヒトプリオンを病原性プリオンに変換することが示唆された。
58	大腸菌性胃腸炎	ProMED-mail. 20180426.5770265	カナダのアルバータ州において、豚肉が感染源となった腸管出血性大腸菌O157感染症が発生した。
59	大腸菌感染	Transfusion. 58(2018)1940-1950	フランスにおいて、血小板輸血による輸血感染症の原因となるタイプの <i>Escherichia coli</i> が極めて特徴的な形質を有すると報告された。
60	大腸菌感染	厚生労働省. <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000186540.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000186540.html</a>	2017年8月から10月に医療機関から報告された血液製剤に関する感染症報告(疑い事例を含む)は、輸血用血液製剤で16件あり、うち1例が死亡した。患者は10歳未満の女児で、原疾患の急性骨髄性白血病の再発に対して同種骨髄移植が実施された。照射濃厚血小板-LR投与直後より状態変化あり、投与後1カ月6日目に敗血症性ショックによる多臓器不全にて死亡した。当該製剤から大腸菌が検出され、検出された菌株と患者由来株の相同性が確認された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
61	サルモネラ症	CDCホームページ. <a href="https://www.cdc.gov/salmonella/backyard-flocks-06-18/index.html">https://www.cdc.gov/salmonella/backyard-flocks-06-18/index.html</a>	2018年6月1日時点で、米国の36の州においてサルモネラ菌感染のアウトブレイク124例が報告されている。発症日は2018年2月2日～5月14日で、21例が入院した。疫学的所見、トレースバック及び検査所見より、複数の孵化場からのヒヨコやコガモ等、生きた家禽との接触との関連が示唆された。聞き取り調査において情報が得られた74例のうち、55例(74%)が発症までの1週間に、飼料店、ウェブサイト、孵化場、親戚等の供給元からヒヨコやコガモと接触したことが報告された。異なる複数種のサルモネラ菌( <i>Salmonella Seftenberg</i> 、 <i>Salmonella Montevideo</i> 、 <i>Salmonella Infantis</i> 、 <i>Salmonella Enteritidis</i> 、 <i>Salmonella Indiana</i> 及び <i>Salmonella Litchfield</i> )によりアウトブレイクが発生したことも報告された。
62	ペスト	ProMED-mail. 20171205.5482572	2017年11月27日、Ministry of Health of Madagascarは、肺ペストの都市部における深刻なアウトブレイクの抑制について正式に通知した。ペストはMadagascarにおいて蔓延しており、ペストシーズンが9月から4月まで継続しているため、2018年4月までに腺ペスト及び散発性肺ペストの症例がさらに報告されると予想される。ペストはマダガスカルの風土病であるが、2017年の流行は通常より早く始まり、肺ペスト型が優勢で、これまでペストが流行していなかった地域にも影響を及ぼしている。
63	ペスト	ProMED-mail. 20180502.5780275	2017年8月に2017-2018年シーズンのペスト初発症例が報告されて以降、2018年4月末までに少なくとも死亡239例を含む2671例のペスト症例が記録された。2017-2018年シーズンの症例数は年平均(約400例)の6倍以上であり、アウトブレイクの開始は通常よりも早く、2017-2018年シーズンの都市部における肺ペストの優勢は農村部における腺ペストの通常の傾向と異なるものであった。
64	ブルセラ症	CDC MMWR. 67(2018)286	テキサス州Paradiseにある酪農場の生乳からブルセラ菌RB51株が検出された。また、テキサス州住民1例におけるブルセラ症に当該酪農場の生乳が関連していることが明らかとなった。米国CDCは、2017年6月1日から8月7日に当該酪農場の生乳又は生乳製品を摂取した人は抗生物質治療を受けるべきであると勧告をしている。
65	ブルセラ症	IASR. 39(2018)84-86	日本で、新規ブルセラ菌による感染症例が初めて報告された。患者は60歳代の男性で、2017年6月、急性腎障害による尿毒症の診断で入院した。血液培養の結果、グラム陰性桿菌が検出され、ブルセラ菌と判定された。また、腎生検の結果より、当該菌感染に合併した腎炎と診断された。その後、ブルセラ症の再燃は認められていないが、ブルセラ症の治療後も腎機能は回復せず、維持透析導入となった。なお、同居の妻には感染の徴候は認められていない。一方、患者より分離されたブルセラ菌は、遺伝子解析により、自然宿主をげっ歯目とする <i>Brucella suis biover 5</i> と近縁であることが示され、既知のブルセラ菌ではないことが明らかとなった。患者には渡航歴はなく、喫食歴、動物との接触歴等の聞き取りや自宅周辺調査からは感染経路や保菌動物を明らかにすることはできなかった。
66	ブルセラ症	IASR. 39(2018)123-124	日本で、新規ブルセラ菌による感染症例が報告された。患者は40歳代の女性で、2018年1月末から38°C台の発熱を認め、近医を受診し血液検査で貧血が指摘されたが、その他の異常は認められなかった。解熱剤が処方され、数日で症状の改善が認められたが、微熱は継続していた。症状の増悪及び寛解を繰り返していたが、2月下旬から再び38°C台の発熱を認め、救急外来を受診した。原因精査が行われたが、明らかな熱源は認められなかった。総合内科を受診し、両膝関節痛があることから膠原病が疑われ、鎮痛剤が処方された。初診3日後、血液培養にてグラム陰性桿菌が検出された。初診10日後から入院した。グラム陰性桿菌感染症に対して、セフトラジム水和物の投与を開始した。入院8日目に分離菌の16S rRNA解析にてブルセラ菌と判定された。
67	野兔病	GOV.UK. <a href="https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/706674/Emerging_infections_summary_April_2018.pdf">https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/706674/Emerging_infections_summary_April_2018.pdf</a>	ジョギング中の女性1例が野生のノスリ1羽に攻撃され、1週間後に発熱、頭痛及び頸部痛を訴えた。血清検査では <i>Francisella tularensis</i> に陽性を示し、患者は潰瘍腺性の野兔病と診断された。トリによる初めての野兔病の報告である。
68	クロストリジウム・ディフィシル感染	日本獣医師会雑誌. 71(2018)261-265	ウシにおける <i>Clostridium difficile</i> ( <i>C.difficile</i> )の保菌状況について明らかにするために、ウシ糞便検体から <i>C.difficile</i> を分離しPCRリボタイピング及び毒素遺伝子の検出を実施したところ、国内のウシに毒素産生性の <i>C.difficile</i> が分布することが示された。
69	梅毒	CDCホームページ. <a href="https://www.cdc.gov/media/releases/2018/p0925-newborn-syphilis-cases.html">https://www.cdc.gov/media/releases/2018/p0925-newborn-syphilis-cases.html</a> /2018/9/25	米国CDCにより発表された性感染症(STDs)サーベイランスの年次報告によると、先天梅毒の報告症例が、2013年の362例から2017年は918例と急増し、20年間で最も高い症例数を記録した。症例は37の州で報告された。急激な症例数増加は妊娠可能年齢の女性における梅毒の増加と同様であり、STDs全体での全国的な増加を上回っている。当該データは、感染リスクの高い女性での初診時の梅毒検査及びフォローアップ検査を含む、妊娠早期ケアを全ての妊娠女性が受ける必要性を示唆している。

ID	感染症(PT)	出典	概要
70	梅毒	IASR. 39(2018)86-88	梅毒の届出数は近年大きく増加しており、岡山県の発生状況(人口100万人当たりの報告数)は2017年第3四半期において全国第2位となっている。岡山市における梅毒届出数は、2017年第2四半期以降、届出数が急増し、2017年に届出のあった梅毒の患者は108例(男性78例、女性30例)で、2016年と比較して男性は約4.9倍、女性も約3.3倍と大幅に増加していた。
71	スピロヘータ感染	Emerg Infect Dis. 24(2018)1377-1379	本邦で、 <i>Streptobacillus notomytis</i> ( <i>S. notomytis</i> ) 感染により鼠咬症を発症した症例が報告された。患者は94歳女性。発熱、全身倦怠感、食欲不振及び両側膝関節痛のため来院した。両膝に腫脹が認められたが、発赤や動物咬傷痕は認められなかった。患者の両膝関節穿刺液の培養を行ったところ、グラム陰性桿菌を検出し、 <i>Streptobacillus moliniiformis</i> ( <i>S. moliniiformis</i> ) 感染と診断された。抗生物質投与を行うも発熱及び膝関節痛は治まらず、肺炎を併発し、入院56日目に呼吸器不全のため死亡した。検出された菌の遺伝子配列から、原因菌は <i>S. moliniiformis</i> ではなく、 <i>S. notomytis</i> であることが確認された。患者宅で捕獲されたネズミの口腔スワブ検体からも <i>S. notomytis</i> が検出され、患者は同菌を保有するネズミから感染したと考えられる。
72	ヒトアナプラズマ症	ProMED-mail. 20180527.5822126	Vermont Department of Healthのダニ媒介・腸疾患の疫学兼プログラムチーフは、アナプラズマ症の症例は2016年の200例から2017年は400例に倍増していると述べた。例数は同departmentが本疾患の監視を開始した時より、はるかに多くなっている。
73	ヒトアナプラズマ症	Transbound Emerg Dis. 65(2018)231-242	バングラデシュのウシ384頭から血液サンプル及びダニを採取し、アナプラズマ、エールリヒア、リケッチア、バベシア及びタイレリア種の存在について検査した結果、62.2%のウシが少なくとも1種類の菌に感染していることが分かった。また、これまでに同定されていなかったアナプラズマ種( <i>Anaplasma sp. Mymensingh</i> )とバベシア種( <i>Babesia sp. Mymensingh</i> )が検出された。
74	レジオネラ感染	Int J Infect Dis. 69(2018)26-28	米国において、新規レジオネラ菌( <i>Legionella indianapolisensis</i> )による初めてのヒト感染例1例が確認された。
75	細菌感染	CDC MMWR. 67(2018)962-963	2017年7月、65歳の女性1例が、左下腿の約10 cmの壊死を発現した。女性は救急外来を初めて受診してから約36時間後に敗血症性ショックと多臓器不全を発現し、入院してから2日後に死亡した。女性の既往歴には多発性骨髄腫とアミロイドーシスがあり、免疫抑制剤による治療を受けていた。治療開始前に採取した血液培養から <i>Vibrio anguillarum</i> ( <i>V. anguillarum</i> )を特定した。ヒト疾患に関連した <i>V. anguillarum</i> が初めて報告された事例である。
76	細菌感染	Transbound Emerg Dis. (2018)1-10	グラム陽性細菌 <i>Macrococcus caseolyticus</i> ( <i>M. caseolyticus</i> )はヒトや動物において疾患を引き起こさず、通常は動物、食品、植物、環境中等から分離される。2015年9月、中国山東省の養鶏場で死亡率20-30%の <i>M. caseolyticus</i> が検出され、SDLY株と命名された。マウスでの感染実験で最大55%の死亡率が認められ、SDLY株が公衆衛生に及ぼす影響について注意を払うべきであることが示唆された。
77	細菌感染	日本化学療法学会雑誌. 66(2018)237	日本において、新規Brachybacterium属菌による初めてのヒト感染例1例が確認された。
78	アメリカトリパノソーマ症	Am J Trop Med Hyg. 99(2018)723-728	ペルーのアマゾン熱帯雨林で、コウモリからヒトにトリパノソーマ類が伝播する森林型伝播サイクルの存在が示唆された。
79	バベシア症	FDAホームページ. <a href="https://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM614734.pdf">https://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM614734.pdf</a>	米国食品医薬品局(FDA)から業界向けドラフトガイダンス「輸血によるバベシア症伝播のリスク低減に関する勧告事項」が発出された。バベシア属原虫感染歴の調査のための「Donor History Questionnaire (DHQ)の改訂」やFDAに認可された検査手法による通年でのスクリーニングの実施が推奨されている。なお、上記スクリーニングはバベシア症の発症率が非常に高いとされる米国14の州及びワシントンDCでのみ実施が推奨されており、その他の州においてはDHQの改訂のみでよいとされている。
80	微孢子虫類感染	Emerg Infect Dis. 23(2017)387-395	2014年4月、米国で腎移植患者1例が頭痛、複視及び錯乱を呈し、その後神経機能が低下し死亡した。調査でドナー由来感染症の可能性を評価したところ、同じドナーから患者3例に4件の臓器移植(腎臓、肝臓並びに心臓及び腎臓)が行われていたことが判明した。肝臓移植患者では振戦や不安定歩行を認め、腎臓移植患者並びに心臓及び腎臓移植患者は脳炎のため入院となった。胃腸症状はいずれの患者にも認められなかった。死亡した腎移植患者の中樞神経系組織及び2例の移植腎組織から、PCR検査で <i>Encephalitozoon cuniculi</i> ( <i>E. cuniculi</i> )が検出された。生存2例の尿におけるPCR検査でも <i>E. cuniculi</i> が陽性であった。ドナーの血清では <i>E. cuniculi</i> 抗体が陽性であった。